



文部科学省 報道関係者各位  
厚生労働省 報道関係者各位

2021年7月7日

## 調査「新型コロナウイルス感染症拡大状況下で教育を受ける看護学生の声」概要 一般社団法人日本看護学教育学会

### <はじめに>

本学会は1991年に、看護学教育の向上と看護学の発展に寄与することを目的に設立され、2014年に一般社団法人となりましたが、起点は1952年看護婦学校専任教員養成講習会卒業生の同窓会、後の日本看護教育研究会です。

現在、会員数は約4600名で、学会の活動は、学会誌の発行はもとより、看護学教育の質の向上、研究活動の推進、看護学教育制度の検討、広報・社会貢献、災害支援や看護学教育の倫理等に関して取り組み、年1回の学術集会に於いては、看護学教育について研究発表や交流を重ねてきております。

看護学教育は、2020年春以降の新型コロナウイルス感染症拡大で、授業・実習共に大きな影響を受けております。本学会では、オンラインによる学術集会の開催、教員への新たな教育方法の工夫を共有する研修会等行ってまいりました。

この度、本学会の災害支援対策委員会が中心となり、全国の看護学生を対象に実態調査を実施いたしました。この結果を広く社会にもお知らせし、看護学生の現状を知っていただくことが必要と考え、以下に、調査内容の概要を示します。

なお、この調査に関するご質問、お問い合わせは、末尾に記しましたので、ご活用ください。

理事長 大島弓子

### I. 調査目的

新型コロナウイルス感染症拡大の状況下における看護学教育の苦難に対応した対策の立案に向け、新型コロナウイルス感染症拡大状況下で教育を受けている学生の意見を聴取し、看護学生の声を反映した看護教育の提言を行い、看護学教育の向上を図る。

### II. 調査対象

全国の看護基礎教育機関に在籍する全ての看護学生

### III. 調査方法

- インターネットサーベイ（Google フォームを用いた調査票への直接入力）
- 調査内容：属性、日常生活や経済状況に関する不安、学習環境、看護職への志向性の変化、就職活動等
- 全国の看護基礎教育機関1,067校に調査協力依頼書（看護学生向けポスターを含む）を送付
- 倫理的配慮：日本看護学教育学会倫理審査委員会に研究計画書を提出し、承認を得て実施
- 調査資金：令和2～3年度一般社団法人日本看護学教育学会の予算より支出

### IV. 調査期間

2021年3月（1ヶ月間）

### V. 調査結果

本調査を依頼した全国の看護系高等教育機関（大学、短期大学、専門学校、等）1,067校中、252校

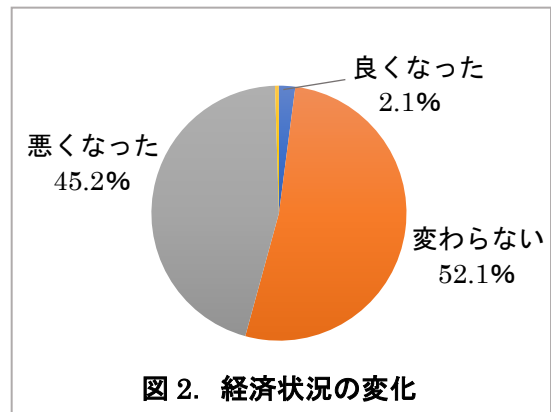
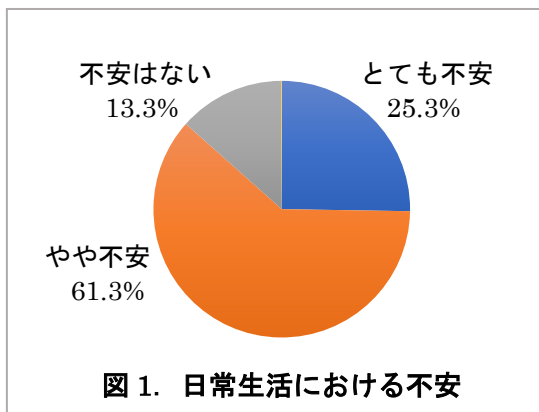
から回答があり、216校から同意を得た。同意を得られた看護系高等教育機関に所属する看護学生9,140名から調査への参加の同意を得た。以下に、各質問項目に関する回答の集計結果を示す。

## 1. 回答者の属性

- ① 居住地域：北海道地方：3.2%、東北地方：6.2%、関東地方：28.1%、中部地方：14.7%、近畿地方：14.8%、中国地方：7.9%、四国地方：3.9%、九州地方：20.4%
- ② 所属学校の形態：  
看護専門学校（3年課程・4年課程含む）：51.6%（4,664名）、（2年課程）：3.9%（350名）、（その他課程）：3.3%（300名）  
大学：37.1%（3,349名）、短期大学：1.9%（168名）  
5年一貫制：1.0%（133名）、高等学校：0.5%（48名）、その他：0.3%（27名）
- ③ 学年：1年生：35.3%、2年生：33.9%、3年生：23.5%、4年生：6.9%、その他：0.4%
- ④ 性別：男性：8.0%、女性：90.1%、その他：0.3%、回答しない：1.5%
- ⑤ 居住形態：実家：69.0%、アパート等で一人暮らし：19.0%、寮：8.1%、その他：3.9%

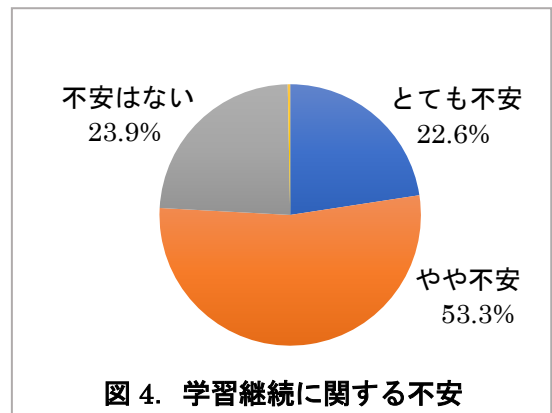
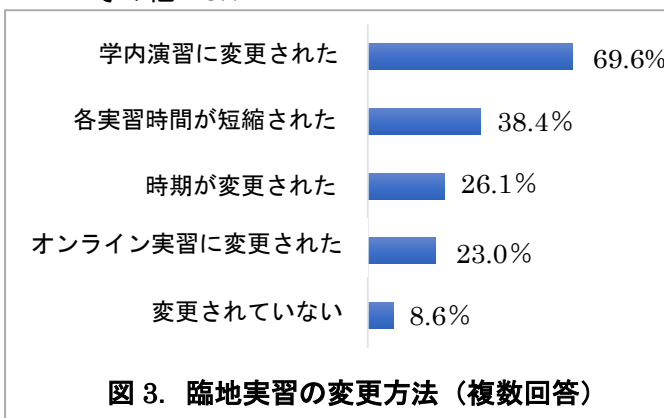
## 2. 日常生活や経済状況

- ① 日常生活（自宅の生活環境や学校生活等）は感染拡大前と比べて、どのように変化しましたか。  
⇒良くなった：6.0%、変わらない：31.4%、悪くなった：60.8%、その他：1.8%
- ② 感染拡大後の日常生活における不安について教えてください。（図1）  
⇒とても不安：25.3%、やや不安：61.3%、不安はない：13.3%、
- ③ 経済状況は感染拡大前と比べて、どのように変化しましたか。（図2）  
⇒良くなった：2.1%、変わらない：52.1%、悪くなった：45.2%、わからない：0.5%
- ④ 経済状況に関する不安について教えてください。  
⇒とても不安：22.0%、やや不安：44.8%、不安はない：32.8%、その他：0.3%
- ⑤ アルバイト収入は感染拡大前と比較して、どのように変化しましたか。  
⇒増えた：2.6%、変わらない：17.2%、減った：29.7%、収入がゼロになった：12.3%、アルバイトをしていない：38.1%
- ⑥ 感染拡大に関する学校による経済的支援について、教えてください。  
⇒必要としていない：25.4%、受給し満足している：8.5%、  
受給したが不十分であった：12.6%、支援がなかった：19.6%、  
申請したが不採用だった：2.8%、分からない：29.6%、その他：1.5%
- ⑦ 経済状況が悪化して困っていることを教えてください。（複数回答可）  
⇒特になし：52.2%（4,591名）、遊興費を切り詰めている（趣味や交際費）：41.7%（3,661名）  
食費を切り詰めている：18.5%（1,628名）、学費が払えない：7.0%（616名）、  
医療費が払えない：2.7%（234名）、家賃が払えない：2.5%（222名）



### 3. 学習環境について（新型コロナウイルス感染症拡大前と比較して）

- ① 感染拡大後の講義の実施方式について教えてください。（複数回答可）  
⇒対面式講義：78.0%、ライブ配信：60.2%、オンデマンド：34.6%、資料配布のみ：15.4%、実施されていない：2.6%、
- ② 感染拡大前と比較して、講義への満足度はどのように変化しましたか。  
⇒満足度が上がった：5.9%、変わらない：55.8%、満足度が下がった：33.8%、その他：4.4%
- ③ 感染拡大後の学内演習の実施方法を教えてください。（複数回答可）  
⇒感染拡大前と変わらない：27.4%、人数、時間を制限して実施：65.2%、オンラインで実施：27.2%、実施していない：6.3%
- ④ 感染拡大前と比較して、学内演習への満足度はどのように変化しましたか。  
⇒満足度が上がった：4.3%、変わらない：57.8%、満足度が下がった：34.8%、その他：3.0%
- ⑤ 感染拡大後の臨地実習について教えてください。  
⇒予定通り実施：16.2%、感染拡大の影響で一部中止：66.0%、感染拡大の影響で全面中止：14.1%、その他：3.7%

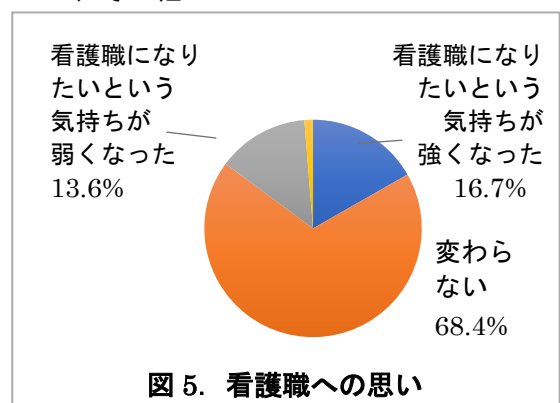


- ⑥ 臨地実習の実施方法が変更になった場合の変更方法について教えてください。（複数回答可）（図 3）  
⇒学内演習に変更された：69.6%、各実習時間が短縮された：38.4%、時期が変更された：26.1%、オンライン実習に変更された：23.0%、変更されていない：8.6%
- ⑦ 感染拡大前と比較して、臨地実習への満足度はどのように変化しましたか。  
⇒満足度が上がった：5.1%、変わらない：49.4%、満足度が下がった：41.5%、その他：4.0%
- ⑧ 感染拡大前と比較して、講義・学内演習・臨地実習の自身の学習到達度は総合的にどのように変化しましたか。  
⇒学習到達度が上がった：5.4%、変わらない：42.6%、学習到達度が下がった：32.2%、分からない：19.5%、その他：0.2%
- ⑨ 学習継続に関する不安について教えてください。（図 4）  
⇒とても不安：22.6%、やや不安：53.3%、不安はない：23.9%

### 4. 看護職への志向性について（新型コロナウイルス感染症拡大前と比較して）

- ① 感染拡大前と比較して、看護職への思いについて教えてください。（図 5）  
⇒看護職になりたいという気持ちが強くなった：16.7%、変わらない：68.4%、看護職になりたいという気持ちが弱くなった：13.6%、その他：1.3%
- ② 看護職への思いが変化した理由を教えてください。

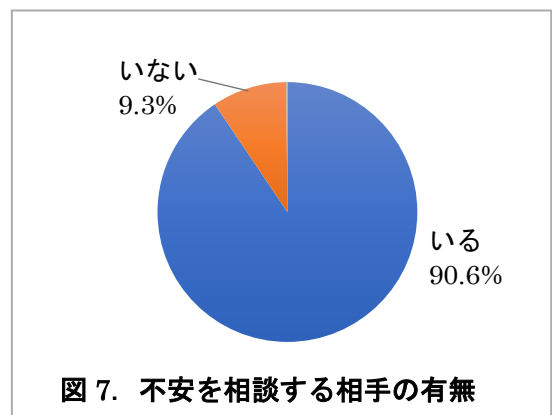
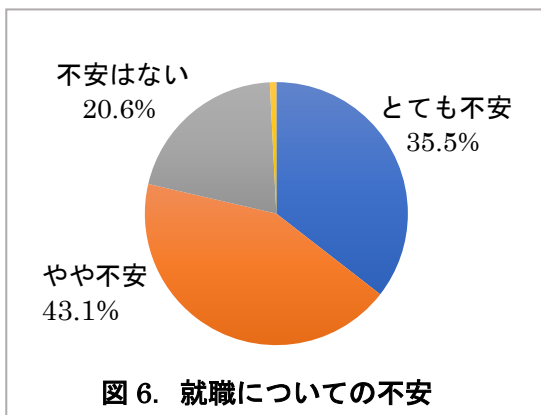
- 肯定的変化の理由
- 有事下の医療現場で力になりたいという気持ちの高まり
  - 看護師の必要性についての再認識
  - コロナ禍の医療現場の最前線にいる医療従事者への尊敬と憧れ



- 将来のために今できることを意識した
- 否定的変化の理由
- 最前線の過酷な環境で働く看護師への重圧
  - 看護師への差別や偏見
  - 感染リスクが高い職場で働くことへの不安
  - 看護師の待遇への不安
  - 臨床で必要とされる知識や技術を修得できていないという評価

## 5. 就職活動について（新型コロナウイルス感染症拡大状況下での就職活動）

- ① 就職活動について、感染拡大により影響があったことを教えてください。（複数回答可）  
 ⇒インターンシップに行けない：43.1%、特に影響はなかった：36.0%、  
 県外移動等の制限がある：28.8%、就職説明会が行われなかった：24.4%、  
 就職活動に関する情報を得ることが出来なかった：16.5%



- ② 就職についての不安について教えてください。（図 6）  
 ⇒とても不安：35.5%、やや不安：43.1%、不安はない：20.6%、その他：0.7%
- ③ 感染拡大に伴う生活の変化に関する不安について、相談する相手はいますか。（図 7）  
 ⇒いる：90.6%、いない：9.3%、その他：0.1%
- ④ 相談相手について教えてください。（複数回答可）  
 ⇒家族：89.0%、友人：79.3%、学校の先生：26.8%、その他の相談相手：1.2%
- ⑤ 感染拡大に関する思いや伝えたいこと、希望する支援等、自由に記載して下さい。
- 演習・実習や就職活動の制限に伴って、納得できる未来を築けない可能性に不安が募る
  - 感染リスクが高い学習環境に身を置かなければならないこと、感染予防を徹底しなければならぬ立場にあることに対して強い精神的負荷がかかる
  - 看護学生はこれほどまでに窮屈で縛られるような生活をしなければならないのか
  - 学生の安全、教育の質が保障される体制を整えてほしい
  - 支援を必要としている人に納得のいく経済的支援をしてほしい
  - 医療従事者の過酷さも踏まえて、感染対策を講じる必要性を強く伝えるべき

## VI. 調査結果から考えられること

1か月という短期間の調査であったにもかかわらず、9,140名と多くの看護学生から回答が得られた。また、自由記述欄にも多くの記載があった。このことから本調査内容への関心の高さがうかがえる。COVID-19 状況下において、日常生活に不安があると回答する者が8割を超え、講義・演習・臨床実習の実施方法が変更される中、学習継続への不安があると回答した者が7割を超える。また、アルバイト等で生計を支えていた一部の学生は、生活困窮状態にあることが推察され、経済的支援は必須のように思われる。感染拡大状況下における学習や生活上の不安について、一定数の学生は相談相手がいないと回答したことから、そのサポート体制の構築が望まれる。看護職への志向性の変化については、7割の者が変わらないと回答する一方、強くなったと回答する者と弱くなったと回答

する者が同等程度あったことは、今後検討を要する事項と考えられる。

今年度最終学年を迎える学生は、感染拡大の影響が2年間にわたることになるため、本調査結果以上の影響が出てくる可能性がある。効果的な教育を展開している授業や学校もあることが推測される回答もあったが、看護学生に対する教育の保証が幅広く担保されるような方策を、早急に検討する必要がある。

## VII. 今後の対応の方向性

本学会は、2021年度の重点活動の1つに「看護学教育の質担保に向け、COVID-19状況下における必要となる本学会の活動を行う。」をあげている。さらに、具体的な活動として、1) COVID-19状況下およびその後における看護学教育の質担保、向上に向けた教育・研究への取り組みへの奨励、2) COVID-19状況下およびその後における看護学教育への対応策とその活動をあげている。これらの方針のもと、予算化している事業の中で、今回の調査結果に基づき対応策を具体化することを考えている。学生個人々人への具体的支援は、日本中を視野に置いた場合、困難であることも予測されるが、本学会の目的、役割の見地から、多様な支援策を考えたい。

以上

### 【ご質問・ご意見の問い合わせ先】

一般社団法人 日本看護学教育学会

E-mail: maf-jane@mynavi.jp

FAX: 03-6267-4555

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F